

# 県内職業高校の再編と課題

## ——急速にすすむ学科再編——

内山雄平

### 一、はじめに

十月十九日、県教委は高校の九六年度募集学級の計画を発表した。職業高校では、三条工業高校に県内初の「建設工学科」（工業化学を改編）、今年度三条商高・柏崎商高に設置の「国際教養科」（商業科を改編）を新潟商業高校に、さらに新発田農高・長岡農高・高田農高に設置の「生産技術科」（農業・園芸・畜産学科を統合）を加茂農林高校に、それぞれ拡大させる。

一方、今年度十日町総合高に設置した第三の学科といわれる「総合学科」を新井高校に、また、新潟高・長岡高・高田高に設置の「理数科」（学区なし）を、

新発田高校にも、来春、新たに拡大される。また、新潟中央高の保育科は廃止される。

このように、いま、県内の高校再編が大学進学向上対策を軸に、職業高校の学科を含め、急速にすすんでいる。小論は職業学科再編問題を中心に、これまでの経過と背景をふまえながら、抱えている問題点や課題を明らかにしたい。

### 二、県内職業高校の学科再編について

ここ十二年間の新潟県における、職業高校の学科再編・学科別学級数の推移をみると全体として、普通科の比率が高まり（八二年度五七・七％―九五年度六一

・五％)、職業学科が縮小している(第一表)。また、職業学科再編の動きとして、八六年度から農業経済科、電子機械科、情報処理科の新設で、農業・工業・商業とも揃って、新たな学科の再編が開始された。そして、九一年度を前後して、農業は食品科学科・食品流通科、工業は機械システム科、商業は情報経理科などの学科を設置し、学科の多様化を押し広げてきた。さらに、九二年度からは、国際文化・情報科学など「その他学科」として新設され、九五年度は十日町総合高校(旧十日町実業高)に総合学科、八海高校(旧六日町女子高)に体育科・福祉科が加わって、「その他学科」の学級数が二〇と著しく増大してきている。

(1) 八〇年代の農・工・商・家の学科再編の特徴とその背景

高校の職業学科の在り方に、直接影響を与える政府・文部省の政策の動向は、理科教育および産業教育審議会(理産審という)への諮問やその答申に現われる。県内では「県産業教育審議会」(県産審という)の県教委への建議がそれである。

八五年二月十二日、県産業教育審議会は、職業教育改善の指針として①産業経済の変化への対応、②生徒の多様な実態への対応、③柔軟性を備えた産業人の育成をかけた、さらに、職業教育の改善・充実を図るた

め、県内の産業構造は、第一次産業の比重が高いとしながらも、先端技術関連産業の進出や高速交通網の整備による広域経済圏の進展、地場産業の活性化などから大きな変化が見られ、このような変化に対応した学科を構成するとして、次のように示した。

・農業に関する学科：生徒の能力・適性・進路や産業の実態などに応じた類型(コース)と企業の複合経営に対応する「農業経済科」の設置。

・工業に関する学科：半導体技術の開発から、今後一層マイクロコンピュータが機械製品に組み込まれることから、機械技術と電子技術を一体化した「電子機械科」の設置。

・商業に関する学科：OA、LAN(ローカル・エリア・ネットワーク)など情報技術の高度化に対応した「情報処理科」の設置。

・家庭に関する学科：高齢化社会を迎え、国民の福祉に対する多様なニーズに対応した「福祉科」の設置の検討。

こうした県産審の建議を受けて、県教委は八六年度から農業に「農業経済科」、工業に「電子機械科」、商業に「情報経理科」の設置を図った。

無論、このような職業教育の学科再編には、文部省・財界の教育政策が大きく反映していることはいうま

でもない。当時、戦後政治の総決算として「教育臨調」が中曽根内閣によって打ち出され、内閣直属の審議機関として発足した「臨教審」第二次答申（八六年四月二十六日）では、次のようにふれている。

「高等学校については、さらに能力適性に応じて、できるだけ多様な教育内容を選択できるようにする。……職業教育については、その深化を図るものと、職業教育と普通教育との統合を図ることがふさわしいものと、その特質に応じて充実を図り、学科構成においても、社会や時代の進展に応じて既存の学科にとらわれず柔軟に対応し得るようにする。……」

ここでは、職業学科を、職業教育として深化を図るものと、普通科と統合させるものとに二極分解させるという方向づけが提起されている。この方向は、現在、職業教育として深化を図るものとして、職業教育の活性化方策に関する調査研究会が「スペシャリストの道（高度な専門的な知識・技術を有する人材）」（九五三年三月最終報告）を明らかにし、また、普通科と統合を図るものとして、「総合学科」が全国で二〇校設置され、より一層「多様化」政策を進めようとしている。

(2) 九〇年代の農・工・商・家の学科再編の特徴とその背景

このような国の臨教審答申などを受け、「生き生き

新潟教育プラン（第六次総合教育計画）」では、生徒の学力向上を推進するため、「各高等学校では、多様な科目選択や生徒の実態に応じた類型設定、学校、地域の実態に応じた教育課程の編成・実施を推進する」。職業学科については、生徒の減少等に対応して「普通科と職業学科の割合を見直し、適正化を図る。職業科の見直しを行ない、学科転換を図る」とし、職業学科の縮小と再編を明確にした（九一年三月）。

さらに、「新しい時代に対応する教育の縮制度の改革について——学科制度の再編成、教育内容・方法の改善、学校・学科間の移動など——」を内容とする第一四期中教審の提言（九一年四月）を受け、県教委は、九四年三月職業学科の新設・再編と職業教育の在り方について、具体的な施策を打ち出した（「新しい本県高等学校の在り方——高校検討委員会報告——」）。すなわち、

① 特色ある学科・コースの設置・国際化・情報化など産業社会の進展と技術の高度化等による産業構造・就業構造の変化にとまない……新領域に対応する新しい学科やコースを設置する……。

② 小学校の系統化・生徒の選択幅を拡大する観点にたつて、系統別に統合し、専門教育に関する基礎的・基本的な知識・技術を幅広く学習する学科、ある

いは既設の学科区分を越えた複合的な学科等を設置する……。

③ 職業学科の総合化：学科の総合化を図り、多様な学科やコースを設置し、学科等の枠を越えた……新しいタイプの総合選択制の職業高校の検討。

を要請し、各学科の改善策を次のように示した。

・農業に関する学科…「生産技術科」「生物工学科」「食品科学科」など。

・工業に関する学科…「機械システム科」「情報技術科」「テキスタイル科」など。

・商業に関する学科…「会計科」「流通経済科」「国際経済科」など。

・家庭に関する学科…「服飾デザイン科」「生活経営科」など。

なお、九五年七月、県産審は「工業に関する学科」について、国の動向をふまえつつ、「学科の配置や教育内容・教育方法が産業社会や生徒・保護者のニーズに対応していない状況も見られる」とし、産業構造や地域産業の動向等に応じて再編整理することを求めた。すなわち、学科の配置は、地域の特性に応じて「スクラップ・アンド・ビルド」の立場で再編整理を進め、配置の適性化を図るとする中間報告を発表した（当県高等学校における今後の工業教育の在り方につい

て）。これを受けて、九六年度から三条工業高校の「化学工業科」は廃止され、「建設工学科」が新設される。

ところで、このような県教委の各高校現場への学科設置には、看過できないいくつかの重大な問題を抱えている。それは、

① 設置年度の前年九月に入って、ようやく現場の校長から教職員に知らされ、打診Ⅱ内示というかたちで、押しつけられること。

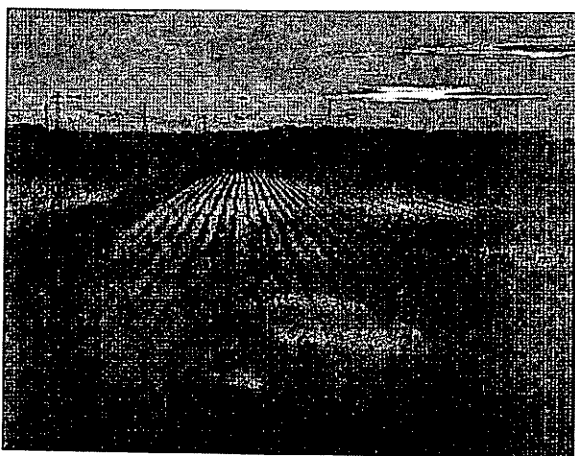
② 突然の県教委の打診のため、職員間の合意が不十分のまま、わずか半年間でその学科の教育課程の編成に取り組まなければならないこと。

③ したがって、地域産業の動向・地元の意向を反映させ、生徒の進路を含めた将来展望を十分論議を尽くすことなく、他県の高校視察などで得た資料をもとに編成せざるを得ないこと。

④ 新学科の教育を展開するのにふさわしい施設・設備の予算が不足していること。  
などである。

### 三、今後の課題 — まとめにかえて —

以上述べてきたように、県内職業学科の再編はかつての「遅れず先走らず」の七〇～八〇年代と異なり、



(写真・磯田公仁)

全国に比して、最近急速に進行している。こうした職業高校で学ぶ子どもたちはどう育っているかを、入学した高校の中退・留年者から見たものが第二表である。これを学科別に見ると、最も社会矛盾の集中している漁業や農業の担い手を育てる「水産科」・「農業科」の中退・留年率が一〇%以上であり、これに対して「商業科」は普通科より低くなっている。

入学後の中途退学や原級留置について、県産審でさえ「目的意識を持たなかったり、不本意感を抱いてい

る生徒がいることが重大な要因」と指摘している（前掲「工業教育の在り方について」）。つまり、学科が新しく設置されれば、それだけ学科間の格差が広がり、選別が強化され、不本意入学の生徒を生んでいる。また、「福祉科」の設置などに見られるように、高齢化対策と安上がりの福祉行政をすすめるうえで、役立てられている。

その意味で、今日の職業高校の再編は「能力主義による多様化」であり、安上がりでかつ、労働政策に高校教育を従属させる側面を持っているといえよう。

しかし、職業教育は産業社会の発展とともに、とりわけ地域産業の動向と深く関わっていることは間違いない。私たちには、職業高校の再編を受け止めるとき、職業高校で学ぶ生徒の大部分が地元に残り、農業を含め地域産業を支え、発展させる原動力を担っていることを考えると、その学校でどのような生徒を、どんな力をつけて社会に送り出すか、現場の教職員だけでなく、地域の産業者・父母の要求に耳を傾け、地元の産業構造の動向にも視野入れて、県教委と対置する形で、自校の職業教育の将来像を創り出すことが求められている。

(うちやまゆうへい 村上桜ヶ丘高校)

第1表：学科再編および学科別学級数の推移

年度	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	
普通	366	429	412	405	406	417	430	443	431	418	408	408	409	406	
農 業 科	農業	24	24	21	20	18	17	16	14	12	11	11	11	9	5
	営農	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2
	園芸	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3
	畜産	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	1
	食品化学	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
	醸造	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	食品製造	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	食品科学										1	1	1	1	5
	農業土木	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	造園	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	林業	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	林産	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	生活	10	11	8	7	7	7	7	7	7	7	5	4	4	4
	農業経済					1	2	2	4	6	6	6	6	6	5
	食品流通										1	1	1	1	1
	生物工学												1	1	1
生産技術													4	9	
小計	55	56	50	48	47	47	46	46	46	46	44	44	44	43	
工 業 科	機械	35	37	37	37	36	34	33	31	29	27	24	20	17	17
	電子機械					1	3	4	6	8	10	10	10	10	10
	機械システム											2	5	7	7
	電気	21	21	22	22	22	22	22	22	22	22	22	21	21	21
	電子	7	7	7	7	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	建築	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	土木	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	工業化学	7	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	化学工業	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	2
	染色化学	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	繊維工学	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1
	染色	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	デザイン	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
小計	87	91	93	92	93	93	93	93	93	93	91	89	88	86	
商 業 科	商業	83	87	87	87	85	83	83	83	80	76	73	72	67	62
	情報処理					2	4	5	5	5	5	5	5	5	5
	情報経理								1	3	5	6	7	8	8
	会計													2	3
小計	83	87	87	87	87	87	88	89	88	86	84	84	82	78	

水産科	漁業	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1				
	水産製造	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	食品化学	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1			
	水産増殖	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
	機関	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
	海洋科学												1	1	1
	食品科学												1	1	1
海洋工学												1	1	1	
小計		6	7	7	7	6	6	6	6	5	4	4	4	4	
家庭科	家政	14	15	14	14	13	12	12	12	12	12	11	9	7	
	被服	17	18	18	18	18	17	16	16	16	15	13	11	10	7
	食物	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	
	保育	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	生活文化													2	4
小計		36	38	37	37	36	34	33	33	33	32	30	27	26	22
看護	衛生看護	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
専門	学科合計	268	280	275	272	270	268	267	268	267	263	254	249	245	234
その他の学科	国際文化											2	2	2	2
	情報科学										2	2	2	2	2
	英語											1	2	2	2
	理数														3
	体育														1
	福祉														1
	国際教養														4
	総合														5
小計											4	5	6	20	
総計		634	709	687	677	676	685	697	711	698	681	666	662	660	660

年度別の高等学校入学者状況報告より作成。

第2表：年度別入学生の学科別中退・留年者の推移

年度	86		87		88		89		90		91		92		
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	
普通	689	3.9	642	3.5	846	4.4	832	4.3	763	4.1	758	4.1	725	4	
農業	195	10.9	193	10.6	207	11.1	208	11.7	212	11.8	181	10	182	10.3	
工業	197	5.4	212	5.8	228	6.2	242	6.6	278	7.6	305	8.5	233	6.7	
商業	132	3.4	131	3.4	147	3.7	135	3.4	120	3.1	116	3	125	3.4	
家庭	61	3.9	82	5.4	80	5.4	75	5.2	77	5.4	76	5.6	68	5.3	
水産	20	11.5	17	11.4	18	10.3	17	10.2	29	16.5	13	8.7	19	12.4	
その他														1	0.6

学校要覧により長井氏（新津高校）が作成。